



厚 企 企
平成19年5月7日

国土交通省道路局長 様

北海道厚沢部町長 波 田 正 司



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付け国道企第114号にてご依頼のありました標記について、別紙のとおり提出いたしますので、よろしくお取り計らい願います。

(企画商工課企画係)

道路整備に係る中期的な計画の作成にあたっての意見

1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

我が国が継続的に発展し、誇りを持って次世代に引き継ぐことのできる国土と地域を形成するためには、それぞれの地域において安全安心な地域づくり、個性的で生き生きとした社会の構築が極めて重要である。

その中であって、道路は、国民生活の向上、経済社会の発展に欠くことのできない最も基礎的な社会資本であり、その整備は長期的な視点にたつて着実に推進されなければならない。

ことに、広域分散型社会を形成する北海道の整備状況は、全国に比べ未だ十分とはいえない状況にあり、大動脈となる高規格幹線道路や国道、住民に密着した市町村道にいたるまでの道路網を完備することが肝要である。

特に優先的に推進すべき政策は、以下のとおりである。

① 交通ネットワークの戦略的整備と活用

全国に向けて良質な食糧を供給する食糧基地としての北海道において、道路は、その輸送手段として重要な役割を担っており、安全で安心な食糧供給が希求されている昨今、益々その役割が重要となっている。

農業を基幹産業とする当町においては、発祥の地を誇るメイクインをはじめ、特産の光黒大豆や小豆、野菜、水稻などを生産しており、その輸送手段は唯一の国道である227号を利用している状況にある。また、昨年誘致した地元産農産物を使用しての焼酎工場から出荷される製品や木材製品等の輸送には安定的な道路交通の確保が大前提であり、さらには道内や本州方面に輸送するためには、広域的な道路のネットワークと陸、海、空の各種輸送モードへの円滑な接続が必要不可欠となっている。

当地域において、国道227号は檜山管内と函館圏を結ぶ唯一の国道であり、日常的な買い物や通院のみならず、救急搬送などに欠くことのできない利用度の高い最重要路線である。さらに本路線は、北海道新幹線の開業に伴い北斗市に予定されている新函館駅へのアクセス道路として、さらには、道州制や支庁制度改革及び市町村合併が進む中、より広域化が推進されることとなり、産業、経済、文化の振興及び地域づくりを推進する上で、益々その重要性が増している。

また、活動を続けている駒ヶ岳の噴火や集中豪雨等の自然災害により国道5号が通行止めとなった際には、道央と函館圏を結ぶ迂回道路として重要な路線である。

このように当地域にとって生命線となっている当該路線の安全で安定的な交通確保のために必要な現道整備が重要である。

道南地域の高規格幹線道路は、北海道の背骨となる北海道縦貫自動車道や函館・江差自動車道の整備が進められているものの、早期供用に向けては一層の整備促進が必要であり、地域高規格道路に関しては、函館空港と連結し、地方から空港へのアクセスを向上するための函館新外環状道路の早期整備が必要である。このような規格の高い道路や交通拠点を結ぶための道路をネットワークとして戦略的に早期整備し、活用することが非常に重要である。

② 交通事故対策

北海道における交通事故による死者数は減少してきてはいるものの、年間300人近い人が亡くなっている。広大な北海道にあっては、町と町との距離が長いこと、自動車の走行速度が比較的高い郊外においては重大事故につながっているものと考えられる。

また、冬期間においては特に路面の状況が場所によって変化しており、思わぬところでスリップするなどヒヤリとすることも少なくない。

このような地域特性や気象特性を踏まえ、より一層の交通事故対策が重要である。

③ 道路の除雪、防雪、凍害・雪害防止対策

北海道は豪雪地帯であり、除雪などの雪害事業は冬期間の道路交通を確保するためになくしてはならないものである。特に除雪や排雪が滞ると交通に大きな支障をきたし、住民生活に重大な影響を及ぼすこととなる。また、冬期間は雪のため道路幅が狭くなり、さらには、路面が凍結・圧雪状態となり、夏期に比して車のスピードが著しく低下し、スリップの危険性もあることから、除雪や凍結防止剤の散布などにより適切に路面の管理を行い、冬期間の安全確保に努めることが重要である。

また、雪崩や吹き溜まりによって通行者が危険に遭わないようにするとともに、通行止めが発生しないよう、雪崩予防や吹き溜まり予防の対策が必要不可欠である。

④ シーニックバイウェイ等観光を支援する道路政策

道南ではシーニックバイウェイのルートとして、函館・大沼・噴火湾ルートが指定ルートとなり、本格的に取り組みが始まったところである。

檜山南部4町と西南渡島4町が参加しての地域づくり交流連携フォーラムにおいても本制度を活用しての広域的な観光振興を検討しており、ルート指定に向けた取り組みを進めることとしている。

地域資源を活用しつつ、道路景観を軸とした広域的な観光や地域づくりを支援する道路政策が重要である。

2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

道路は、住民の生活になくしてはならない基礎的で最も重要な社会資本のひとつである。

今後の道路事業の実施に当たっては、透明性の確保と明確な目標を定めるなど、地域住民に分かり易い道路事業を推進すべきである。